

「架け橋」が創るWIN・WIN の世界

松 井 大 悟



このたび、平成20年8月に下水道新技術推進機構（通称下水道機構）理事長を退任いたしました。下水道機構季刊誌上で関係者に御礼を申し上げる機会を与えられて感謝しております。

下水道機構は「下水道界の官・民の架け橋」を掲げて、諸問題の解決に取り組んでおります。私の在任の間、出捐団体と賛助会員のご理解を得、また、評議員、理事の方々のご支援をいただき、さらに技術委員会等のご指導のもと、下水道機構運営の舵取りを何とか許容の範囲に収められましたことにほっとしております。ともに問題解決に取り組んでいただいた多くの公共団体・民間企業の方に御礼申し上げます。

またこの間、官民の多くの方々と職場をともにし、彼らのひたむきな仕事への情熱と豊富な知識から私自身も多くのことを学ぶことが出来ました。下水道機構OBの方々と現役の職員に心から感謝しております。

私の8年間に渡る下水道機構生活のなかで一番感じたことは、下水道界には多様性に富みかつ専門性の高い優秀な人材がいかに多いかという事でした。また、若手であっても、将来その道の専門家として活躍する可能性を持っている人材の豊富なことも肌身で感じました。公共団体の方々は、多面的な仕事の経験が多く、仕事をまとめていく能力が鍛えられています。一方で、民間企業から下水道機構に来られた方々は、それぞれの専門的な知識を豊富に持たれています。これらの人達が下水道機構という一つの社会に入りますと、互いに融合することによって大きな力を発揮します。これは、下水道機構という組織にとっても大きなメリットですが、それぞれの個人にとっても自らを大きく成長させるいい機会になっているのではないのでしょうか。その様を見て、異文化の融合とはこういうものであったと改めまして感じた次第です。

下水道機構が理念として掲げている「架け橋」によって、下水道界全体が大きな利益を得るとともに、この「架け橋」を通じて、また個人も成長していくというWIN・WINの世界が実現しているのです。下水道機構の新たなビジョンでは、この橋をさらに多方面に架けて行くことを目指しています。今後とも下水道機構の事業への皆様の温かいご支援をお願いし、退任の挨拶といたします。これまで、本当にありがとうございました。